

アサギマダラ

アサギマダラ (英名: chestnut tiger butterfly、学名: *Parantica sita*) は翅にある派手な茶色と黒と白の模様が英名の由来です。開帳はおよそ 10 センチメートルです。このチョウは日本で見られるチョウの中でも季節的な移動をするという点で独特で、時には 2,000 キロメートルを優に超えて移動します。このような行動をとる理由はまだ分かっていません。この場所でアサギマダラをたまたま見つけた場合、科学者によるこの移動の追跡調査や、もしかするとこの謎の解明にも実際に協力できるかもしれません。

毎年の春 (4 月～5 月) にアサギマダラは東北に向けて日本列島を北東方向に移動します。その移動中に、アサギマダラが鳴門から淡路島まで、大鳴門橋と同じ経路を辿って飛んでいくのを見ることができます。秋が来ると、アサギマダラは反対方向に向かって移動します。しかし、この生物の寿命はわずか 6 か月であるため (その他のほとんどのチョウの寿命よりは長い)、復路の旅を行うのは春に渡りをしたチョウの子供です。この戻って来るチョウは再び鳴門を通過しつつ、日本の鹿児島や沖縄だけでなく、時には台湾や香港といった南西にまで移動します (後者は日本本土から約 2,500 キロメートル離れています)。